

平成30年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特1		学校名	県立盲学校						学校長名	村山 亮							
教頭名	石上 智子						事務室長名	小池 孝										
教職員数	教諭	49	養護教諭 栄養教諭	2	常勤講師	11	非常勤講師等	4	実習教諭 実習助手等	6	寄宿舎 指導員	16	事務職員	4	技術職員等	12	計	104
幼児・ 児童・ 生徒数	部		1年(3歳児)		2年(4歳児)		3年(5歳児)		4年		5年		6年		合計		合計 クラス数	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
	幼稚部		0	0	0	0	0	2							0	2	1	
	小学部		1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	0	6	7	7	
	中学部		2	2	2	0	0	2							4	4	5	
	高等部	本科	普通科	2	1	0	1	2	0						4	2	3	
			保健医療科	0	1	0	0	0	1						0	2	2	
専攻科		保健医療科	6	0	3	0	3	1						12	1	3		
		療科	1	2	1	2	1	0						3	4	3		

2 目指す学校像

- ◆ 安全・安心な学校
- ◆ 生きる力を育てる学校
- ◆ 明るく活力のある学校
- ◆ 保護者・地域から信頼される学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項目	現状分析	課題
学習指導	<p>個別の教育支援計画，個別の指導計画，年間指導計画等の見直しを行い，さらなる個に応じた指導の充実を図っている。</p> <p>研究授業やICT機器を活用した授業実践に取り組み，指導力向上に取り組んでいる。</p> <p>安全・安心の視点で学習環境の改善に取り組んでいる。</p>	<p>教科・領域係会の充実を図り，個別の指導計画を生かした教科等の指導力向上を推進する必要がある。</p> <p>外部専門家と連携し，授業改善をととした自立活動の指導力向上を推進する必要がある。</p> <p>専門性研修の内容を工夫し，さらなる専門性向上に努める必要がある。</p>
生徒指導	<p>安全マップの作成や，関係機関と生徒との懇談会を実施し，安全に係る連携強化を図った。</p> <p>いじめに関するアンケート，外部講師によるスマートフォンやSNSに関する授業を実施し，危険回避や未然防止，課題への早期発見に取り組んでいる。</p> <p>生徒会関連の各行事の運営など，生徒が自主的に取り組めるよう指導し，活動の充実を図っている。</p>	<p>いじめに関するアンケート項目や実施時期を見直し，未然防止や早期発見の体制を強化する必要がある。</p> <p>生徒指導に係る情報の共有化に努め，チームによる迅速・的確な課題解決の体制を強化する必要がある。</p>
進路指導	<p>県内特別支援学校，関東地区盲学校進路指導部，職業安定所等の関係機関との情報交換や連携に努め，生徒の実態や希望に添った職場開拓や進路先決定，卒業生支援に努めている。</p> <p>進路だよりの発行や進路に関する講演会を開催し，児童生徒や保護者に対し理解推進を図っている。</p>	<p>事業所等への理解推進を図り，進路の選択肢を広げるとともに，職域開拓を継続して進める必要がある。</p> <p>児童生徒や保護者のニーズに合った進路だよりの発行や講演会を企画し，理解推進をさらに充実させる必要がある。</p>
センター的役割	<p>学校公開，地域巡回相談会，研修会等を実施し，視覚障害に関する理解推進や関係機関との連携を図っている。</p> <p>関係機関主催の支援会議や研修会への参加をベースに，地域とのネットワークづくりに努めた。</p> <p>HP内容の充実と更新頻度のアップに努めた。</p>	<p>関係機関との連携や研修会への参加，教材・教具に関する情報提供等を継続的に行い，視覚障害教育の理解推進を図る。</p> <p>さらに，広報活動を充実させ活気ある活動につなげる。</p> <p>多様化する幼児児童生徒に対し校内支援の充実を図る必要がある。</p>

4 中期的目標

- 1 一人一人の発達段階や教育的ニーズに応じた教育を行うための、指導体制、指導方法、指導内容の工夫や研究、及び専門性の向上に努める。
- 2 健康な身体や豊かな心を育成するための、健康増進や体力向上、自然体験や社会体験等を通じた人間性・社会性の育成に努める。
- 3 地域や関係機関等のニーズに応じたセンター的機能を発揮するための専門性の向上（校内支援の充実）に努める。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標	
安全・安心な学校	幼稚部	幼児が安心して活動できるよう、安全に配慮した保育環境の整備に努める。
	小学部	児童が安心して楽しく進んで活動できるよう、児童の実態に応じた教室環境・学習環境の整備や壁面構成の工夫に努める。
	中学部	学習環境や生徒の使用する教材・教具の整備とともに、生徒同士の間関係の変化等への配慮をとおして、安全かつ安心して学校生活を送れるようにする。
	高等部	生徒一人一人の障害の程度や実態を鑑みた学習環境並びに教室環境等を整え、それぞれが目標に向かって励むことのできる支援の充実に努める。
	寄宿舎	舎生の健康観察に努め、保護者・学級担任・養護教諭と情報を共有しながら安全な養育をする。舎生一人一人を十分に理解し関わることで、心の安定を図り、心身ともに健康で安心な寄宿舎生活ができるよう努める。
教科等の指導力の向上	幼稚部	体験を重視した活動を多く取り入れた保育計画を作成し、指導方法の反省点についての話し合いにより情報を共有し、授業改善を図る。
	小学部	年間指導計画・個別の指導計画を有効に活用し、教材・教具・手立てを工夫するとともに、教科会や参加した研修会報告等職員間で情報を共有し合い、教科の専門性の向上に努める。

	<p>中学部</p> <p>個々の障害の程度や学び方の特性に基づき個別の指導計画を作成し、教科の専門性にたって作成した教材・教具を効果的に活用しながら個に応じた授業実践を行う。</p>
	<p>高等部</p> <p>他校（高等学校やあはき師学校養成施設等）との情報交換及び教科会の充実に努め、各教科における特性を踏まえた指導法を継承しつつ、生徒一人一人の学び方を意識した指導に努める。</p>
<p>自立活動の指導に関する専門性の向上</p>	<p>幼稚部</p> <p>幼児の実態を把握し、医療・教育等の関係機関との連携に努めながら個に応じた保育の充実に努める。</p>
	<p>小学部</p> <p>自立活動の指導に関するテーマを設定し、事例研究（授業研究）に取り組むことで、実態・課題に応じた指導方法・指導内容について整理し、職員間で共通理解をもって支援にあたるよう努める。</p>
	<p>中学部</p> <p>生徒の障害の状態、課題、指導の方法等についてのケース会議を定期的に行い、学部教員の共通理解のもと指導を行うとともに、外部の専門家の指導助言を実践に生かす。</p>
	<p>高等部</p> <p>定期的なケース会議や生徒の実態や障害の状態に関する情報交換を積極的に行い、生徒一人一人の将来を見据えたニーズに応じた支援に努める。</p>
<p>自主・自立を育む教育の推進</p>	<p>幼稚部</p> <p>自ら分かって動けるような安全な環境設定をするとともに、自主性を促すための教材・教具の工夫に努める。</p>
	<p>小学部</p> <p>集団活動において、個々の役割や児童同士での話し合い活動等を積極的に設けるなど、自分の役割に責任をもち、進んで取り組む気持ちを育てるための支援の工夫を図る。</p>
	<p>中学部</p> <p>各教科・領域における生徒個々の学習課題を明確にし、獲得した能力や得意な面を生かした指導方法を工夫することで、自ら学び行動しようとする意欲を高める。</p>
	<p>高等部</p> <p>普通科では、視野を広げ社会性を養うための体験学習や集団活動の充実に努め、問題解決能力を高められるような様々な課題を積極的に設定する。 理療科では、校内外の臨床実習の充実に努め、施術者として必要な豊かな人間性を育てる。</p>
<p>早期教育，通級指導教室の充実</p>	<p>個別の指導計画や個別の移行支援計画の充実に努め、乳幼児一人一人に合った教育支援や保護者への援助を行う。 関係機関と密に連携し養育支援，就学支援の強化に努める。</p>

	<p>在籍校と連携しながら，支援の充実を図るとともに，在籍校への情報提供に努める。</p>
<p>外部への情報発信の充実</p>	<p>HPの充実による理解啓発に努める。 学校公開，オープンスクール等による理解啓発に努める。 P T A，親の会，同窓会等と連携した活動を行う。</p>
<p>センター的機能の充実</p>	<p>教育相談を積極的に実施し，センター的機能の充実を図る。 巡回相談や在籍校訪問を通して，校内支援体制に関する助言や支援を行う。 専門家と連携しながら環境整備等などの助言指導を行い，小中学校等の支援に努める。 研修会や講演会を通して幼小中高等学校等の教職員の視覚障害教育の理解推進に努めるとともに本校教職員の専門性の向上を図る。 各地域に出向き，相談支援や教材教具，補助具等の情報提供を行う。 多様化する幼児児童生徒への校内支援の充実を図る。</p>